

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	第二言語習得は、日本語教育をはじめとする外国語教育に関わる研究者や教員にとって非常に重要な分野であり、本講義では第二言語習得に関する理論を基本から最新の理論まで広く学び、さらに、自分の分野に理論を応用できる能力を養うことを目的とする。また、習得研究を行うための分析方法を学び、自身の研究に応用できる能力を身につける。 以上の目的を達成することにより、言語教育における問題点の把握と解決策を提案する能力、論理的に考察する能力、新しい課題に挑戦する力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 第二言語習得に関する理論を理解し、研究に応用できる能力を身につける。 習得研究に必要な研究・分析手法を理解し、応用できる能力を身につける。 【行動目標（SBOs）】 ・ 第二言語習得の基本的理論と最新の理論を説明できる。 ・ 第二言語習得の理論を自分の研究に応用できる。 ・ 習得研究に用いられる研究手法・分析手法を説明できる。 ・ 統計手法が用いられた研究論文を理解し、説明できる。 ・ 研究目的にふさわしい研究手法・分析手法を適用できる。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・ manaba folio 上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 ・ manaba folio を通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・ 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）教材と関連文献を熟読する。15 時間 （自主研究）課題に関し、事例研究を実施する。10 時間 （レポート作成）レポートを執筆する。10 時間 （ディベート）他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5 時間 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5 時間 ＊学修時間は課題レポート 1 本あたりの目安時間		
スケジュール	<前期> ・ レポート課題 1 締切：6 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） ・ レポート課題 2 締切：8 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） <後期> ・ レポート課題 1 締切：10 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） ・ レポート課題 2 締切：12 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式（構成、引用のし方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性） ＊後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 ＊その他のレポートは、最終稿にて評価する。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	・ 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 ・ 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 小柳かおる・峯布由紀 教材名： 『認知的アプローチから見た第二言語習得』（くろしお出版，2016） ISBN： 978-4-87424-683-2 3,700 円+税
	認知的アプローチから第二言語習得理論を扱ったもので、後半は教室習得研究に焦点をあてている。英語教育のほか、国内外における日本語教育に関する研究例が紹介されており、該当分野の最新の動向を知ることができる。
参考図書	大関浩美『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（くろしお出版，2010） ISBN： 978-4-87424-480-7 1,800 円+税
履修上のポイント	第二言語習得研究、特に教室習得に関する研究は、国外において英語で発表されたものが多いが、本書にはこれらの研究が多く紹介されており、貴重な情報を得ることができる。関心のある文献を入手し、読んでほしい。参考図書『日本語を教えるための第二言語習得論入門』は、日本語教育に関する事例が多く取り上げられ、非常にわかりやすく解説されている。また、過去の研究例も多く紹介されている。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、第二言語習得に関する理解を深めること。
レポート課題 1	基本教材 1 の第 1 章から第 3 章を読み、日本語の発達段階について具体例をあげて検討した上で、自身の考え、該当分野の展望を述べる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 専門が日本語教育でない場合は、他の言語を扱っても構わない。
レポート課題 2	基本教材 1 の内容を参考に、自身の研究に関する実験計画を立てる。具体的な対象、取り上げる項目、期間、方法、検証方法、予測される結果を論じる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 取り上げる項目について、なぜ対象とするのかその理由も述べる。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 竹内理・水本篤 教材名： 『外国語教育研究ハンドブック改訂版』（松柏社，2014） ISBN： 978-4775402016 3,500 円+税
	第二言語習得に関わる研究に統計分析の手法は必要不可欠である。基本教材 2 は、量的研究のほか質的研究についても解説されている。また論文執筆の注意事項も取り上げられている。
参考図書	島田めぐみ・野口裕之『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房，2017） ISBN： 978-4894768628 1,600 円+税 島田めぐみ・野口裕之『統計で転ばぬ先の杖』（ひつじ書房，2021） ISBN： 978-4-8234-1028-4 1,400 円+税
履修上のポイント	習得研究に必要な分析手法を学び、具体的な研究論文を正しく理解・評価すること。ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、分析方法に関する理解を深めること。
レポート課題 1	教材 2 にあげられた分析手法が用いられた論文 1 編から 2 編を読み、教材 2 で論じられている分析方法と結果について理解した上で要約する。学んだことや疑問点も論述する。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 専門が日本語教育でない場合は、他の言語を扱っても構わない。論文の内容を理解した上で、自分の言葉で要約を書くこと。
レポート課題 2	自身の研究テーマあるいは関心のあるテーマを取り上げ、データ収集と分析の枠組みを検討し、論述する。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 量的研究であっても質的研究であっても構わない。すでに自身が行った研究について述べても構わないが、もし選択した方法や枠組みが不適切であったことがわかっていたら、その点も述べる。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章，第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 3 回	日本語の発達段階について検討
第 4 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	リポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 10 回	実験計画の立案
第 11 回	実験計画の立案
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 11 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 12 章～第 16 章
第 3 回	関連論文の熟読
第 4 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	リポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 17 章～第 20 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 21 章～第 22 章
第 10 回	実験計画の立案
第 11 回	実験計画の立案
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成